



聞き手 Benesse教育研究開発センター長 新井健一

新井 教育の分野については今後

**デジタル教科書・教材が
早ければ2015年には
普及する**

10年ほど前からは「ユビキタス」時代の到来が現実味をもつて語られるようになってきた。それらがよいよ実現しそうですね。

中村 また、これまでの10年は主にデジタル化が進んだのは、音楽や映画のようなエンターテインメントの分野が中心でした。しかし、これからは高速通信のインフラが全世界に整備されることによって、教育、医療、行政などあらゆる分野のオンライン化が進みます。それが今後の10年でしょう。

10年でどうなるでしょうか?

中村 政府は2020年までに「デジタル教科書の完全普及を目指しています。10年後にはすべての

子どもたちが学校の教室や家庭

で、「デジタル端末を使用して勉強

するようになるでしょう。そうなる

と学習環境がこれまでとは大きく

変わります。先日、「デジタル教科

書教材協議会」を発足させました

が、70社が参加、7月の設立にあ

たつて開催したシンポジウムのネッ

ト中継は、なんと1万5千人の

方々に見ていただきました。それ

くらい関心を持たれ、「デジタルで

新しい教材をつくろう」とさまざま

な分野で動いている。ある教科

書会社の人は、1年前にはこんな

状況を想像もしていなかったと言つ

しました。参加企業にはこれまで

教育とは関わりのなかつた、新聞

社やゲーム会社も名を連ねていま

す。新しい教育の世界が始まると

いう感じになつてきましたね。

新井 デジタル端末や教材の普及

で、子どもたちの学習はどう変わ

っていくとお考えですか?

中村 デジタル端末が教育現場に

普及したときに重要なのは、教科

書・教材の中身がデジタルになるこ

とに、子どもたちや先生がネット

ワークでつながり、これまでにな

かつた「ミニユニークーション」を利用し

た教育が生まれるということだと

思います。教科書や教材が主体で

はなく、それをもとにした「ミニユ

ニクーション」が主体の授業が生まれ

たり、子どもたちは常に「デジタル端

末を持ち歩くようになりますか

ら、学校と家庭の「ミニユニーク

ション」のあり方までも変わつてくるで

しょう。

また、「デジタル化が大きく効果

を上げる教育分野として、これま

でのパソコンの時代には「繰り返し

学習」に向いていると言われてき

ましたが、それはあくまで計算機

としての延長上の考え方で、私は今

後それ以上に映像・音楽などのクリ

エーティブな分野に力を發揮する

し、来年に迫った地上デジタル放送への完全移行で、アナログ放送がこれまで使用していた電波帯に空きが生まれ、その活用が進めば通信網が整備されます。また、情報デバイスの面ではテレビ、パソコン、携帯電話などのモバイルに次ぐ、第4のメディアとしてスマートフォン、キンドル、iPad、あるいは「デジタルサイン」などといったものが定着していくと思われます。

新井 まずお伺いしたいのは、今、電子ブック元年などと言われていますが、今後、中村先生は2020年頃までに「デジタル技術によって世の中がどう変わっている」とお考えでいらっしゃるか?

中村 インフラ面では、この10年でブロードバンド環境が完全に整備されていくでしょう。政府は全世界にブロードバンド環境を普及する「光の道構想」を推進しています

新井 20年ほど前から、すべての家庭がネットワークにつながるという高度情報化社会が近い将来到来すると言われてきました。そして、

新井 20年ほど前から、すべての家庭がネットワークにつながるという高度情報化社会が近い将来到来すると言われてきました。そして、

今後10年で教育、行政、あらゆるサービスがオンラインに

2020年、約10年後を想像してみよう。
世の中はデジタル技術によってどう変わっているだろうか?

そして、ベネッセグループの事業領域である教育や生活にどのような影響を及ぼすのか?

慶應義塾大学の中村伊知哉教授に伺った。

※文中敬称略

し、来年に迫った地上デジタル放送への完全移行で、アナログ放送がこれまで使用していた電波帯に空きが生まれ、その活用が進めば通信網が整備されます。また、情報デバイスの面ではテレビ、パソコン、携帯電話などのモバイルに次ぐ、第4のメディアとしてスマートフォン、キンドル、iPad、あるいは「デジタルサイン」といったものが定着していくと思われます。

新井 まずお伺いしたいのは、今、電子ブック元年などと言われていますが、今後、中村先生は2020年頃までに「デジタル技術によって世の中がどう変わっている」とお考えでいらっしゃるか?

中村 インフラ面では、この10年でブロードバンド環境が完全に整備されていくでしょう。政府は全世界にブロードバンド環境を普及する「光の道構想」を推進しています

新井 20年ほど前から、すべての家庭がネットワークにつながるという高度情報化社会が近い将来到来すると言われてきました。そして、

新井 20年ほど前から、すべての家庭がネットワークにつながるという高度情報化社会が近い将来到来すると言われてきました。そして、

中村伊知哉教授プロフィール

1984年、郵政省入省。1998年、MITメディアラボ客員教授。2002年、スタンフォード日本センター研究所長。2006年より慶應義塾大学教授。内閣官房知的財産戦略本部コンテナ強化専門調査会会長。情報通信審議会専門委員、文部科学省「学校教育の情報化に関する懇談会」委員、文部科学省「コミュニケーション教育推進会議」委員・他。社団法人「融合研究所」代表理事、デジタルサイネージコンソーシアム理事長、デジタル教科書教材協議会副会長、NPO「CANVAS」副理事長、ミクシイ社外取締役などを兼務。

著書に『デジタルサイネージ革命』(朝日新聞出版社、共著)、『通信と放送の融合のこれから』(翔泳社)、『デジタルのおもちゃ箱』(NTT出版)、『日本のポップパワー』(日本経済新聞社、編著)、『インターネット、自由を我等に』(アスキーエンターテインメント)など。

学習・教育のスタイルが生まれてい
くのではないかと思います。

日常の買い物の数十%が、 オンラインになる 可能性がある

新井 今度は私たちの生活に田を
向けてみたいと思うのですが、この
10年でどう変わるでしょうか？

中村 冒頭で今後あらゆる分野の
オンライン化が進むと述べましたが
が、まだ日本の小売市場、年間
135兆円のうち、ネット・携帯電
話からの売り上げは1.5%に過ぎま
せん。まだ98%はリアルな店舗など
での販売が占めています。しかし、
オンラインでのショッピングは近年
急速に伸びてきています。これは
オンライン上でクレジットカード
などを使用して買い物をしても大
丈夫だという安心感が広まったこ
とが一因だと私は考えていますが、
今後10年でそれがどこまで伸びて
いくか。もしかしたら數十%まで
いつているかも知れない。そうなる
と私たちの生活環境もビジネスの
環境もがらりと変化するでしょう。

新井 テレビ、パソコン、携帯電話、
そしてiPadのようつに多様なデバイ
スが普及すると、私たちは一体どれ
かのようつに情報を入手するの
か、どうつ話も出てきますね。

からどのようつに情報を入手するの
か、どうつ話も出でますね。

これからベネッセが 取り組むべき対策とは？

中村 今の若者は、常に3つの画面
から同時に情報を得ていると言わ
れます。テレビをつけながら、パソ
コンを見つつ、携帯電話を開いてい
る。それに今後はPadやデジタル
サイネージといった第4のメディア
も加わってくる。すると企業側は、
それぞれのメディアでばらばらに
情報発信をしていては全然ダメで、
ひとりの人をつかまえるために、ど
うやってこれらを組み合わせるか
を考え、情報を届けるための設計
をする必要が出てきます。ベネッセ
のような企業ではそういうことを
研究していく必要が出てくるので
はないでしょうか。

新井 貴重なお話、どうもありが
とうございました。

※「デジタルサイネージ」：店舗、交通機
関、キャンバス、オフィスなどに設置した
ディスプレーに、タイムリーに映像や情
報をネット経由で配信するシステム

※ユビキタス：この場合、デジタル技術
の恩恵を意識することなく、いつでもど
こでも受けられる状態のこと

※デジタル教科書教材協議会
2010年7月に発足したデジタル教
科書・教材の普及を目指す団体。教育、印
刷、新聞社、ゲーム会社など、計70の企業
が参加している。

求められるのはデジタルそのものではなく、これまで以上の提供価値



Benesse教育研究開発
センター長
新井健一

デジタル社会に向けて、
これからベネッセが
取り組むべき対策とは？

中村先生からお話を伺い、
私たちは今、新たなデジタル
時代の転換点にいるということ
を改めて感じました。これ
までのデジタルビジネスの歴
史は失敗の山でした。失敗の
多くは、一部のデジタル好き、
イベーターの反応に惑わさ
れて、全体の予測を見誤る
ケースです。多くのユーザー
はデジタルが欲しいのではな
く、便利さや安さ、カッコよさ
など、これまで以上の提供価
値を求めているのですが、イ
ノベーターは新しければ飛び
つくのです。

私は、新たなデジタル
社会で提供すべき価値は何か
を、今この転換点で考えてお
く必要があると思います。不
便で高く、カッコ悪いけどデ
ジタルということにならない
ように。